魚沼「新之助」生育情報

第５号

令和４年７月12日
魚沼農業普及指導センター
電話：025-792-7132
FAX　：025-792-9006

急激な葉色低下！確実な穂肥と水管理で栄養維持！！

○生育の概要（調査日７月11日、２地区）（　）内は指標比・差

	田植日	草丈（cm）	茎数（本/㎡）	葉数（葉）	葉色（SPAD）
気象感応ほ	5/20	60(106%)	640(109%)	11.4(+0.4)	35.7(-2.3)
ＪＡ展示ほ	5/23	61(107%)	547(93%)	11.9(+0.9)	35.3(-2.7)
２地区平均	5/21	61(106%)	594(101%)	11.7(+0.7)	35.5(-2.5)
指標値	―	57	590	11.0	38.0

・指標値に比べ草丈「やや長」、茎数「並」、葉数「やや早」葉色は「淡い」
・**特に葉色は前回調査値40.7から5.2ポイント急激に低下した。**

○今後の管理のポイント

１　飽水管理で葉色の低下を抑える

・葉色が急激に低下しているほ場は、中干し終了後、間断灌水を行い、徐々に飽水管理に移行して栄養凋落を防ぐ。
・異常高温、フェーン時には、速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努め、稲体活力の低下を防止する。

２　穂肥対応

・必ず生育診断を行い、穂肥の量と時期を決定する。

※１回目穂肥時の生育のめやす(栽植密度50株植え)

草丈(cm)	茎数(本/株)	葉色（SPAD)
70-72	31-33	33-36

【出穂期予想と穂肥施用時の生育めやす】　（7/11現在）

幼穂形成期	予想出穂期	穂肥１回目		穂肥２回目		２回合計窒素量(kg/10a)
		出穂期前日数	施用時期	出穂期前日数	施用時期	
7/17	8/9	21～18	7/19～7/22	12～10	7/28～7/30	2

・**葉色が急激に低下しているほ場では、１回目穂肥の早め（幼穂形成期頃）の施用を検討する。**
・**有機質由来の窒素割合50%以上の肥料は、肥効が化学肥料より遅いため上記施用時期より早めに施用する必要がある。**

３　病害虫防除

ア　いもち病

・今後の気象予報から、いもち病の発生が懸念されるため、葉色が濃いところ等を中心に早期発見に努め、発病を確認したら防除する。

イ　斑点米カメムシ類

・出穂期前にほ場内外の雑草対策を徹底し、カメムシの生息場所をなくす。

農作業時の熱中症に注意しましょう。こまめな水分と塩分の補給や休憩が大切です。